

ずいそう

上海の今

安部憲一



4月の初めにこの原稿を依頼されたとき、編集委員の方に、どんな内容のものを書けばいいのか、問い合わせた。

早速、最近掲載された「ずいそう」が送られてきて、その文章を読ませてもらうと、2013年8月号に「北京の空」という私の興味をひかれるものがあり、面白く読ませてもらった。

1978年の中国への出張のエピソードである。当時の中国を知らない私は今の上海と比較をしてみようと思ひタイトルを「上海の今」とした。

まず、上海の街中には、人民服の人は全く見かけない。若い女性の服装は横浜の女性と変わらずファッションナブルである。若い男性は細見のパンツに素足風に靴を履き、メンズ服飾雑誌LEONから出てきたようなファッションが目につく。

街にはケンタッキー、マクドナルド、スターバックスと西洋風のコーヒーショップが至る所にあり、しゃれた若者たちがコーヒーを飲みながらおしゃべりをしている。話は少しそれるが、ケンタッキー、マクドナルド、スターバックスの中国語の表記がおもしろい。

ケンタッキーは肯德基 (ken de ji) クンタッジ。発音を漢字に置き換えたものであろう。しかし「肯」の字には「骨が付いた肉」という意味もある。

マクドナルドは麦当劳 (mai dang lao) マイダンラオ。Mc. Donald's をアメリカ人風に発音すると、よく似ている。

スターバックスは星巴克 (xing ba ke) シンバク。星はスター、一文字だけ漢訳しバックスは発音を漢字に置き換えただけである。日本のようにカタカナ文化が無く、漢字しかない国の翻訳である。このような漢洋折衷文化が街中に溢れている。

観光は外灘の夜景、豫園の小籠包、南京路のショッピングといったツアー旅行のコースもいいが、上海の今を散策するのも面白い。

「上海の今」を象徴するような場所で「新天地」というところがある。

旧フランス租界の街並みを再現し、過去と現在が融

合した華やかな空間で、今や上海のダイニング、ファッション、カルチャーなど多岐にわたるシーンでランドマーク的な存在である。これから上海に行こうと思っている人には是非、勧めたい。

話を元に戻し、「北京の空」時代との比較で、トイレの話が出てきたが、当時はドアが無いのが当たり前であったが、今の上海のホテルにはTOTOのウォシュレットがほぼ、設置されているし、ドアもきちんとついて安心して用は足せる。公衆トイレも10年前とは比べ物にならないほど、衛生的になっている。

ビジネスでは10年前は仕様打合せが終わって、理解できたのかと聞くと、即座に中国人は明白了 (ming bai le) ミンバイラ、没问题 (mei wenti) メイウエンティと言った。「明白了」は理解できた、わかったという意味。「没问题」は問題ないという意味だ。しかし、出来上がって来た試作品には思った通り問題が沢山あったのは言うまでもない。

しかし、10年後の今は仕様打合せの場に、設計担当、品質管理、営業担当などが出席し、「明白了」とはすぐには答えず、質問をするようになった。そして、打合せ後には議事録を書き、サインを求められるようになった。

中国は経済の進歩の速さだけでなく、全てにおいて進歩している。

私のせっかちな言動には、10年来の中国人の友人が私に諭すように言うことがある。

「中国人は差不多民族だ。あなたにはその中国人に多くの友人がいて、本当に中国人を理解しましたね。」

「差不多」(cha bu duo) チャブドゥオは、だいたい、ほぼ、およそなどの意味があるが、中国人はあまり小さいことにこだわらず、もっとおおらかに生きようよ。と言っている気がする。

64歳になり、サラリーマン生活も残り少なくなり、この中国人の言っている「差不多」を考えてみようと思っている。